

8月25日正午必着

明石春浦先生書



かえりおちせうこうすき
楓落早鴻過
あいのそんてついにみす
相望終不見

どうていかぎりなきなみ
洞庭無限波
ただこれはくんのみおとし
只是白雲多
(宋 樂)

岸への楓は落葉して初雁が梢をすぎゆく。ここ洞庭湖には、はてしなく波立ち、
彼方のあの人はいかに相い見るよすがもなく、白き浮雲を切なくながめるのみ。

窪田華岳先生書



きおちこうじょうぼんききゅうに
木落高城急暮砧。

がんこうひくわたるへきうんのかげ
雁行低度碧雲陰（高 啓）

木落は落葉、暮砧の砧は衣をうつきぬた。

8月25日正午必着

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

金蘭之契（易）

金蘭の契

朋友相交るの堅きをいう。

石橙茶香清暑後
書窓梧韵晚涼餘（鄭炳泰）

石橙茶香清暑の後、
書窓梧韵晚涼の餘

橙はこしかけ。ひるさがり、石のこしかけに坐して茶の香を味わい、夕暮、書斎の窓に涼しげな梧桐の風声をきく。

暮過山村（賈島）

暮に山村を過る 賈島

數里聞寒水 山家少四隣

数里 寒水を聞く 山家 四隣少ない

怪禽啼曠野 落日恐行人

怪禽 曠野に啼き 落日 行人を恐れしむ

初月末終夕 邊烽不過程秦

初月 未だ夕を終えず 邊烽 秦を過ぎず

蕭條桑柘外 煙火漸相親

蕭條 桑柘の外 煙火 漸く相親しむ

豆の葉の露に月あり 野は昼の明るさにして 盆唄のこゑ（太田 水穂）

青嶂卷簾三面月、
黃花吹鬢幾絲風。
（范成大）

青嶂 卷簾 三面 月、
黃花 吹鬢 幾 絲 風（范成大）

すだれをかがけてみると月は三方の青峰をてらし、
わが鬢髪に吹くのは菊花を渡る数条の風であった。

明石幸子書

半紙部規定課題A

8月25日正午必着

明朝
誰
伴
結

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

8月25日正午必着

行書

明朝誰
伴

隸書

明朝誰
伴

明石春浦先生書

草書

明朝誰
伴

行草書

明朝誰
伴

露の白くおるころ、草はなおも青々と茂る 淮水を行く舟は岸によりそって碇泊する
風に帆をかけて、彼方、此方へ向かう旅人 空には天の川、地上には淮水、それぞれにきらめく星
樹木は静まって、鳥は草の中に眠り 岸の砂は冷たく、鹿が汀を駆け過ぎる
明日の朝、私と連れだって まっすぐに大海に浮ぼうという人はいないものだろうか

秋夜宿淮口

景池

露白草猶青

淮舟倚岸停

風帆幾處客

天地兩河星

樹靜禽眠草

沙寒鹿過汀

明朝誰結伴

直去泛滄溟

秋夜 淮口に宿す 景池

露白くして 草は猶お青し

淮舟 岸に寄りて停まる

風帆 幾処の客

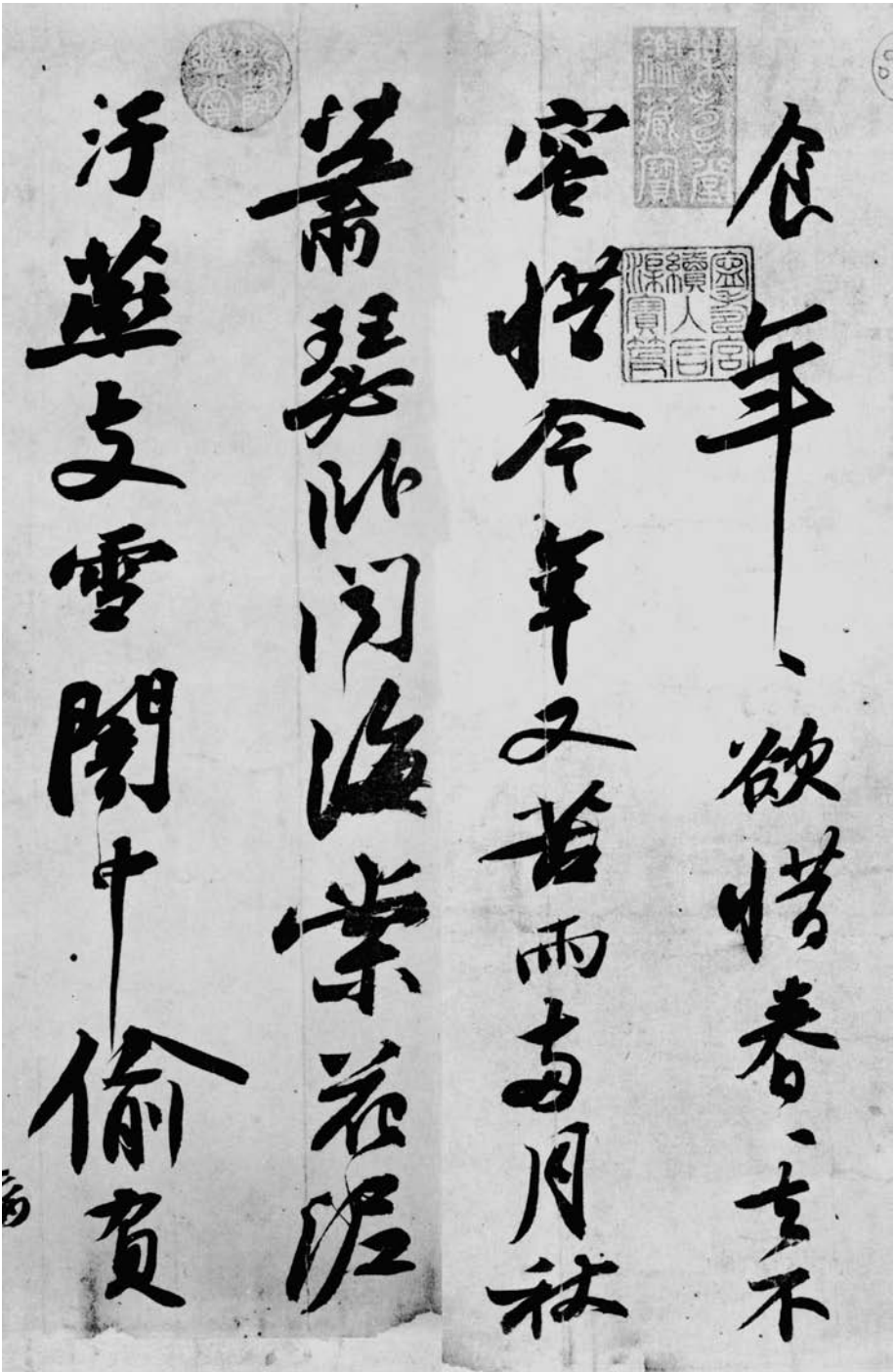
天地 両河の星

樹静かにして 禽は草に眠り

砂寒うして 鹿は汀を過ぐ

明朝 誰か伴を結び

直ちに去って 滄溟に泛ばん



(食年々) 欲惜春 春去不容惜 今年又苦雨 兩月秋蕭瑟 臥聞海棠花 泥汙燕支雪 暗中偷負(去)
(年々々) 春を惜しまんと欲すれども 春去つて 惜しむを容れず 今年 又た雨に苦しむ 兩月 秋 蕭瑟たり 臥して聞く 海棠の花の 泥に
燕支の雪の汚さるるを 暗中 偷かに負いて(去る)

今年又
苦雨

今年
又た雨に苦しむ

今年又苦雨
又月秋葉
瑟瑟
海菜の花泥

今年
又た雨に苦しむ
両月
秋
蕭瑟たり
臥して聞く
海菜の花の
泥に

宋 蘇軾・黃州寒食詩卷

蘇軾は宋代の景祐三年（一〇三六年）十二月十九日、眉山（四川省）眉山県に生まれた。字は子瞻。東坡居士・鉄冠道人・雪浪斎などと号した。北宋を代表する文人で、詩は宋代第一とされ、文は父の蘇洵、弟の蘇轍とともに唐宋八家の一人にあげられている。書は黄庭堅・米芾・蔡襄とともに宋の四大家とよばれる北宋書壇の大御所であり、墨竹も有名である。

嘉祐二年（一〇五七）、官吏登用試験（科挙）に合格して進士となり政界に身をおいたが、幾度となく中央政界から地方転出や流罪などの憂目にあい、元符四年（一一〇一）大赦をうけて帰郷する途中に病死している（六十五才）。

彼の書は若年期には王羲之に傾倒し、特に蘭亭叙をよく学んだといわれている。この時期には行・楷の作が多く、書風はいたっておとなしい。中年期は顔真卿・楊凝式を学んだ時期であり、作風は自由でたくましい。晩年の書は伝えられるものが少ない。

この黄州寒食詩卷は、彼が黄州（湖北省）に流されている時につくった詩二首を書いたもので（四十七才頃）、豊かな人間性が自然のままににじみでていて、力みや乱れは少しもなく、力強く奔放な筆致は彼の会心の作であろう。

（春濤）

8月25日正午必着

教育部毛筆

納涼

のう
納

りょう
涼

中学一年

雨宮春聲先生書

大統領

だい
大

とう
統

りょう
領

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



がっ
合

しゅく
宿

小学五年

藤井良泰先生書



と
徒

ほ
歩

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

8月25日正午必着



細谷春誠先生書

たに
谷

がわ
川

小学三年



榎戸春龍先生書

なつ
夏

やま
山

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

く も 小学一年・幼年



藤田幸春先生書

てん さい 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

8月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

日照りが続いたので
ダムの水量がへった

小学五年

早朝しか見られない
美しい光景がある

小学六年

人生が我々にもたらす
ものはすべて善である

中学

寄せては返すさば波に
素足をぬりー涼をとる

一般(級位)

さざれ波よする文をば青柳の
影の糸して織るかとぞ見る

一般(段位)

さざれ波なみよする文をばあや青柳の影かげの糸いとして織おるかとぞ見るみ(紀貫之)

※文・文様あや

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

る	よ
	そ
ぎ	ら
ん	に
の	
ほ	ひ
し	か

幼 年

は	こ
	ん
か	ぶ
い	や
草	わ
で	か
す	め

小学一年

き	朝
れ	が
い	お
に	の
さ	花
い	が
た	

小学二年

く	草
声	む
が	ら
し	で
ま	虫
す	の
	な

小学三年

で	湖
お	に
よ	う
い	か
で	ぶ
行	小
っ	島
た	ま

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

岩本景楓先生書

おとしり紅葉
ふりかけ
しるし
そわかな
猿丸大夫



おく山に紅葉ふみわけなくしかのこえきときぞ秋はかなしき
久 爾 不 奈具 可 患 支 九 者 支
 (猿丸大夫)